

# 哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

## 千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第156回例会記録 2021.6.10

### 《SNS、スマホ、マイナンバー制度の功罪を考える》

「デジタル庁設置法が成立し、にわかに国民の様々な資産・情報の国家管理が問題になった。今回は、この問題を念頭に、スマホなどの功罪について有益な話し合いが行われた。」

#### 問題提起 吉田千秋(主宰)

- ・感染者数が岐阜でも減少傾向にあります。もうしばらく我慢し互いに気を付けあって、コロナ禍を乗り越えましょう。今日はSNSやスマホなどコミュニケーションサービスや政府の計画するマイナンバー制度の様なデジタル技術を使った行政サービスの問題について考えたいと思います。
- ・科学技術の進歩に基づいた近代文明の発展は、次々と新しい情報交換の手段をもたらしました。進歩は総じて人々に便利さ、快適さ、清潔さなどをもたらし、生活の質の向上に貢献してきました。人間の能力や自然との関係は科学技術の発展によって大きな影響を受けます。望ましい事もありますが、歪みも作り出します。技術的な進歩が政治権力によって悪用される危険には、特に警戒する必要があります。
- ・人々が連絡を取り合う手段の変化には目を見晴らせるものがあります。一昔前の恋人たちは連絡を取り合うためにラブレターを書きました。家庭に電話が普及しましたが、家にある電話には誰が出るか予測不可能です。父親が受話器を取ることも想定されます。固定電話ではプライベートを完全に確保することに限界があります。携帯の登場で、全く新しい状況が生まれました。今では常に自分の部屋から、家族に気付かれずに連絡を取り合う事ができます。この例に明らかな様に、携帯は行動パターンを大きく変えました。10年程たちましたが、ソーシャルメディアの発展で情報発信や入手方法の多様化が更に進んでいます。
- ・フェイスブックやツイッターやインスタグラムは多くの人の生活の一部となっています。個人が常に至る所から情報発信できるようになって、情報そのものが多様化しました。この発展には負の側面もあります。発信元の不確かな情報が大量に世界を駆け巡っています。はっきり言って、質の悪いもの、または偽情報が氾濫し

ている状況は望ましいものではありません。

- ・幾つかの独裁政権を崩壊に導いた北アフリカ、中東地域の政変“アラブの春”は、ソーシャルメディアによる情報交換によって始まった、一種の市民革命でした。新しい情報発信の手段が権力によって利用される危険も否定できません。スマートフォンなどはGPS機能を有しており、権力の側は個人の動きを逐一監視することが可能になります。国家による国民総監視化社会もあり得ない事ではありません。
- ・先月、政府は“デジタル関連法案”を可決、成立させ、新たに“デジタル庁”を設けることが決まりました。政府は同法案の成立によってデジタル社会の実現に向けた改革の第一歩が記されたとしています。行政のデジタル化において重要な位置を占めるのが、マイナンバー制の活用による個人の納税、年金等に関する情報の一元化です。デジタル化による個人情報の一元的管理の目的は、行政サービスの効率化であると言いますが、個人情報の一元化によって国民一人ひとりを権力が容易に監視下に置く事が可能になることに留意する必要があります。
- ・そのほかデジタル化社会実現に伴う問題の一つは、お年寄りを始め少なからぬ住民がインターネットの活用などデジタル化社会の生活に十分に対応できないた





めに、新たな格差を作ってしまう点にあります。現在、新型コロナウイルスに対するワクチン接種の予約受付が行われていますが、インターネットを使えないと、予約手続きが簡単にできません。若い世代と技術革新から取り残された旧い世代の間には大きなデジタル格差が存在しています。

・個人のレベルで情報一元化の問題を実感することは余りないかも知れません。ジョージ・オーウェルが小説『1984年』で描いている様に、国家が個人を完璧に管

理する悪夢のような全体主義の世界が現実になる可能性も否定できません。今の中国は「人々が幸せに管理された国家」になろうとしている様にも見えます。自治を認められていた香港の民主主義は事実上停止されました。人々は管理される事に慣れ、時間が経てば不自由を感じなくなってしまう。日本では決して起きないことだと言いきることはできません。今日は情報をめぐるこうした功罪を多方面から考えたいと思います。

## 意見交流

\* マイナンバーの利便性に怖さを感じる。全てが行政サイドの論理で進められている。政府によれば、マンナンバー制度を導入させる目的は、個人情報を一括管理して行政サービスを向上させることにある。しかし、それは同時に国民一人ひとりを容易に管理することを可能にすることでもある。

\* デジタル化は世界の流れである。デジタル社会は避けられない。だからその功罪についてもっとしっかり議論することが重要である。負の側面に対応する必要がある。

\* 中国政府はデジタル化で国民の監督管理の効率化を図っている。集められた国民の一人ひとりの個人情報をもとに、各人に社会信用スコアが与えられる。信用スコアの高い者はよりよいサービスを受けられるようにして、国民の従順化を促そうとしている。

\* 銀行間の電子送金やクレジットカードの活用などで、キャッシュレスが浸透しつつあるようにも見えるが、現金は相変わらず庶民の支払い手段である。電子化すれば履歴が残って、個人や企業間の金の遣り取りを把握しやすくなる。金の流れを可視化することで、脱税等を困難にすることができるが、同時に、個人の行動も把握しやすくなる。

\* 専らアマゾンで洋書を購入している。以前は丸善で注文していたが、原価の倍払うことになる。アマゾンを使えば、原則原価で購入可能である上、在庫整理のため、割引価格で購入することも可能である。アマゾンはAIを使ったアルゴリズムで個人の趣向を推し量って、「貴方にお勧め」という本の紹介を盛んに行う。入手を考えていなかった商品に興味を抱かせ、消費を刺激する仕組みになっている。当人はただ単に自分が欲しい本を買っていると思っているが、何時の間にか売る側が買わせたいと思う本を買っているかもしれない。我々は便利に道具を使っている様に思っているが、知らぬ間に、道具の方に上手く使われる様な社会になっている。



\* アマゾンは一つの例に過ぎない。知らない所で、多くの個人情報が集められ、勝手にプロフィールが作られている。ほとんどは単純に商業目的のためかもしれないが、陰で何かが起きていると何となく居心地が悪い。

\* 平和運動を行なっている者の多くは権力の監視対象になることを恐れている。マイナンバー制度の導入な

どで行政の管理能力が向上すれば、行政サービスの向上もあるかもしれないが、権力が意見を異にする人たちの正当な権利を侵害することも容易になる。市民の側が注意深く見守る必要がある。

\* 人々がマイナンバーカードを持ちGPS機能を持ったスマホを使うようになる。消費活動など個人に関する情報を集めることが容易になり、権力が市民について何でも知っている警察国家が現実のものとなる。警察は道路に設置してある自動車ナンバー自動読み取り装置Nシステムを通じて、直ぐに捜査対象となった人物の車を発見することができる。また交通違反した際に取りられる指紋や個人のDNA情報など多くの個人の情報が警察の下に集められているらしい。悪用すれば非常に危険なシステムが既に用意されている。その事実そのものが怖い事である。

\* フェイスブックやツイッターはもっと有効に活用ができると思う。悪用を予防するために匿名で個人を誹謗中傷することができないようにすることを期待したい。

\* インターネットを通じて、空間的な隔たりを越えて面識のない人々が交流できる。また共通の言語を使えば、簡単に国境線を越えることもできる。新しいコミュニティを形成することもできる。

\* デジタル化の進行で、若者たちが本を読まなくなった。長編小説を読む若者がどれほどいるだろうか。新聞をしっかり読む若者がいるだろうか。



\* スマホを持っているが、その機能をフルに活用しているとは言えない。料理の情報を得るために、フェイスブックを見たりしている。それ以外は電話として使っているだけ。

\* 情報は開かれた社会の民主主義における意思決定に欠かせない。情報発信に制限がほとんど無く情報交換が自由で活発な社会では、真偽の不確かな情報の氾濫が社会を混乱させる危険がある。プーチン氏が大統領の座に居座るロシアは、欧米諸国から、敵対する国の世論を偽情報で混乱させ、その国の対外的な力を弱めようとしていると非難されている。情報の真偽を見極める能力が欠かせない。

\* 知らない相手からメールが頻繁に送られて困った事がある。対応としてメールアドレスを変える方法もあるが、迷惑している方がそこまでするのは面白くない。個人の情報が知らぬ間に出回っているという事実の表れである。

## 意見交流の最後に 吉田千秋

・今日はどうも有り難うございます。文明の歴史は速度の歴史でもあります。移動手段の歴史も概ね高速化の歴史です。自動車、飛行機と、時代と共により速い移動手段が登場しています。情報のやり取りも移動も以前とは比べようのないほど高速で行われるようになっていきます。

・ここで考えたいのは、高速化は本当に人間のためになるのかということです。高速化で快適さが増すことにも限界があります。日帰りの移動では休む時間がなくなってしまう。でも一体何が私たちに速さを求めさせているのでしょうか。私たちは高速道路を建設し、新幹線を走らせる様になりました。今以上に移動時間を短くすることにどんな意味があるのでしょうか。



・JRは政府の後押しがあって何が何でもリニアを実現させようとしています。ここまで高速化を駆り立てるものがあるとしたら、それは利益を最大限に大きくしようとする資本に内在する自己増殖の欲求に他なりません。リニアは電力需要を著しく大きくするでしょう。政府がも

くろんでいることは、「電力消費の拡大に対応するには、原発を稼働させる他にない」という状況を作ることではないか。資本の利害と国家の利害が一つになって動こうとしている。ボクにはそんな風に思えてなりません。

・デジタル化の流れを変えることはできません。本当に生活の質を向上させるものならば問題はありません。何をやるにせよ、その都度本当に必要なものかどうかを見極める必要があります。マイナンバーによる情報の一元化が、結果として個人を不当に監視の対象として人権を侵害する様なことにならないよう注意したいものです。国家権力がこっそり個人をコントロールする様な社会は誰も望まないはず。国家を万能にするく



らいなら、不便を我慢する方が好いのではないですか。

## みなさんの感想、便り、意見など

○今回の「哲学カフェ」で色々なご意見を聞くことができたが、SNSやスマホが日常となるデジタル社会の到来は避けられようもないと感じた。あらゆる文明の利器は両刃の剣。私は、スマホも使いこなせるほど器用ではないので、いまだに「ガラ携」を使っている。しかし周囲の情報ネットワークが進化していけば、いずれスマホに切り替えなければと思っている。スマホは便利だ、と推奨する人が多いのではあるが、やはり負の局面・害悪と危険性を見極めながら、バランスよく接していきたいと思っている。そのためには、もっと多くの人々が「哲学カフェ」のような、集まりに参加できることを願っている。

(MS)

○脳と眼の機能が日々衰えつつある自分にとって、世の中のデジタル化は体にはつらいことですがあきらめるしかないと思います。資本主義を延命させるためにも産業構造の転換は避けられないことであり、今のところ情報産業はその有力候補の一つであることには異論はないと思います。そして世界各国の政府は構造転換を速めるために、コロナを利用している側面もあるのではと邪推してしまいます。ヒトは生まれた時にあった技術は自然の物として受け入れ、30歳までに産まれた技術は好意を持って受け入れ、35歳を超えて産まれた技術には嫌悪感を持って処理すると言われますが、まさに自分はその状況でこれからどうデジタル化に対応していくのか悩ましいところです。

(たなか)



○携帯電話(スマホ)とパソコンが普及し、電波回線網と有線(光)回線網が広範囲に整備されてきた。データはすばやく広範囲から収集され、膨大な”ビッグデータ”として集積されることになった。データは国又は大手システム会社に集積されている。

政府はこのデータをマイナンバーとのひも付きを試みている。①監視社会に進んでいく事は避けたい。②膨大なビッグデータの管理者は国家ではなく、大企業でもない”民主的”組織を作ってそれに任せるようにしたい。

(アダム・スミス)

○<老朽原発(美浜3号機)の再稼働はダメ！>  
6月23日、関電は40年を超えた老朽原発の美浜原発3号機(福井県美浜町=大垣市から58Km)を10年ぶりに再稼



働させたがこれは大問題である。福島の事故後に設けられた40年での廃炉原則を超えた原発が(岐阜県の隣、80Km圏内に)再稼働したのだ。

寿命を延ばす主な条件は、古くもろくなった部品を取り換えるが、原発の心臓部に当たる原子炉圧力容器は交換できない。核分

裂反応で飛び出す大量の中性子は、金属をもろくする。安全性や事故リスクの評価が延長できるかどうかできているかが疑問。

或る現役官僚(原子力規制庁勤務)の告発に次のような一節を思い出す。(若杉烈著『原発ホワイトアウト』講談社)「僕が許せないのは、うちの幹部が全然フクシマに行かないことですよ。安全な東京にいて、事故の原因もわかっちゃいないのに、原発を再稼働しようとしている。原子力規制庁の幹部も、「安全第一」って言いながら、資源エネルギー庁と阿吽の呼吸ですよ。フクシマで避難されている住民とまともに話をした幹部なんてほんと一人もいないんだ。被災者の人たちと話をして気持ちを共有したら、絶対に原発を動かさしちゃまずいって思うもの…」

地震大国と言われる日本で、老朽原発の稼働は論外である。滋賀県知事も「容認できない」とコメント。岐阜県も隣接でとても許せないはずだが、反応が見られないのが気になる。(井口)

〇いつも「哲学カフェ通信」ありがとうございます。急に暑くなってきたため体がなかなかついて行きません。社会の問題に目を向ける余裕のなさを痛感しています。毎日、いろいろな問題が提起され情報が溢れていますね。消化できず、すでに置いてきぼり状態です。個人個人が尊重される社会になると良いですね。

オリンピックはほぼ開催されることになったように感じています。ワクチン接種もこのままで行くと、開会式までに50%を超えるのかな? なぜこんなに大騒ぎをしているのか、何か隠し事があるのでしょうかね。きつと。オリンピックに大きなお金が動くことが問題ですね。

SDGs的に言えば、儲けてはいけない社会を目指しているのですから、きちんと報告して利益がないことを証

明してもらいたいです。

(T・U)

〇こんにちは。ワタシも気分がすぐれません。どこかか。オリ・パラをするかしないか→無観客か有観客か→何人にするか、とずれていく気味悪さ。

「今更辞められないのなら、できるだけリスクを減らしてやるしかない」という理屈は、1941年12月8日と同じ。どうなるかわかっていて突っ込んでいくのも同じ。

先日、京都在住の抽象画家たちが迎った戦時下のありようを観る機会がありました。そこで週刊『土曜日』の人々が、創刊一周年に琵琶湖クルーズしている映像を観ました。家族づれで歓談し、何人かは酔っ払って甲板上で社交ダンスをする、そのようすをカメラが映しています。1937年7月4日です。

本当につかの間を愉しむ彼らは、足元では既に浸水が起こっていることを知っていたはずですよ。事実、3日後に日中戦争がはじまるのですから。

雑誌『世界文化』の何冊かも展示されていました。真下先生の名前も見つけました。

コロナにまぎれて肥大する軍事費。とてつもない悲劇の予感とともにすごしています。(Mieko)

〇価値観の違いが体制の違いを生み、それが冷戦・新冷戦を生み出したのか? その中身がすっかりこなくて、知識の豊富な方に解説してもらいたい。私も多少はカジツタけれども、中途半端な自分を恥ずかしながらここに披瀝し、自分の中での問題点を明確にしたい。7月の例会でどこまでその問いに迫れるか期待と同時に一抹の不安もある。

6月に「土地規制法」が成立した。住民の監視の目を遮断し、政府が住民を監視する。戦前に回帰するこの法律の怖さがわかってからでは遅い。ミャンマーや香港のようなことがこの日本でも起こる可能性は否定できない。軍事政権による民衆弾圧のようなことが…。

今、コロナが登場し、クマ、イノシシ、サル、ゾウも自分等の生きる場所を求めて迷走しているかに? コロナによって駆逐、駆除されようとしているのは、もしかして、人間かも?

季節には季節の花々、日々変わる朝日、夕日、雲の動きに心躍り、心ときめかす。そんな平和な日常だけでは足りないのか。遠くでホーホ、ホホーと鳩が啼く。ケリの声はもうない。田や畑が埋め立てられてあつと言う間に、住宅に変わった。この人口減少の時代に。本当に大事なことってなんだろう!

「国際連盟・国際連合」についても再考したい。

(ひらつか)

## ＜京都だより その3＞ 『細雪』と京都』

谷崎潤一郎の『細雪』は、大阪の豪商の商家が並ぶ船場、モダンな港町神戸、そして阪神間のいわゆる「高級住宅地」芦屋・御影(みかげ)等が舞台ですが、姉妹の優雅な生活の中で登場する京都も大切な役割を演じます。

「美しく華やかな」四姉妹は、毎年「京都の花でなければ観たような気がしない」「魚は鯛が、それも明石の鯛が一番」と、平安神宮や祇園の円山公園の桜を観、南禅寺近くの料亭で食事をし、祇園歌舞練場で都踊りを見物し、嵯峨・嵐山へも足をのびします。着物で着飾った姉妹に通りかかった人がカメラを向けるというシーンもあります。

物語は、全体としては四姉妹の三女の見合い話を軸に、私生活を細かく描いていて、昭和11(1936)年に始まり16(1941)年に終わります。そしてこの時期は、西安事件(1936)、日中戦争勃発(1937)、ヒトラーのウィーン入り・独逸合併(1938)、第二次大戦勃発(1939)、ダンケルク撤退(1940)、真珠湾攻撃(1941)と、世界と日本が戦争へ突き進んだ時でした。

にもかかわらず、物語に戦争はほとんど出てきません。『国民精神総動員とやらで』法事を簡略にせんととか、見合いの席で中国の武漢三鎮の占領が語られますが、滑稽なほど他所事であり世間話です。姉妹の関心事はなによりも三女雪子の見合いです。唯一、戦勝を祝う提灯行列の様子が、やがて破滅へと向かっていく日本社会を暗示するように暗い雰囲気描かれているだけです。



(市川崑監督「細雪」東宝、1983)

強く感じたのは、作家が描きたかったであろう「滅びの美学」(当時の日本の社会状況からすると悪い冗談でしょう)「失われていくものへの郷愁」という謳い文句よりも、国が破滅へと向かっているような深刻な社会情勢の中で、それを他人事して描く生き様です。

そして、今の日本の状態(ずいぶん前からでもあります)と時代は違っても共通するところがあるのではと、何かぞっとするものがあります。私生活あつての社会生活なのか、社会情勢あつての私生活なのかを改めて考えました。  
(hiro)

## ＜世界一周貧乏旅 その22＞ 「一期一会とスマートフォン」

世界各国でスマホはどのくらい使われていると思いますか？

アメリカ合衆国の民間調査会社Pew Research Centerが国民の何パーセントがスマホを使っているのか各国を調査したところ、2018年春の調査結果では、イギリス76%、アメリカ81%、イスラエル88%、韓国ではなんと95%の国民がスマホを使っていることがわかりました。新興国では、フィリピン55%、ケニア41%、ナイジェリア39%などとなっており、ちなみに日本は66%の国民がスマートフォンを使っています。

僕が旅をしていた2014年当時でも、先進国はもちろん新興国でも道ゆく人がスマホを持っているのを見かけました。昨今の急速な技術革新を考えると、2021年現在スマホの普及率はさらに上がっているのではと思われます。

そんなスマートフォン、これが世界中で普及したおかげで『旅の一期一会』は様変わりしました。一昔前ならば、外国を旅行中に現地の人や旅人たちと仲良くなったとしても、住所を教えてもらって手紙のやりとりをするか、ほとんどは

「またいつか会えたらいいね」で終わってしまう出会いでした。

しかし現在では、仲良くなればその場でスマホを取り出し、

「SNS (Facebookがよく聞かれる) やってる?」「友達申請するから連絡取り合おうよ」と言えば、2度と会えないかもしれない出会いから、またいつか会えるし連絡も気軽にとれるという出会いに変わります。

僕自身も、仲良くなった人たちと旅の最中に連絡をとって「今どこの国にいるの?」「あの場所はよかったよ!」「あの宿がおすすめ」などといった世間話から情報交換も出来たりしました。



SNSで繋がった相手とはたとえ住んでいる場所が別の大陸レベルで離れていても、いつでもどこでも連絡をとることができます。もし国外旅行をする時には、タイミングさえ合えば現地でも落ち合って再会することなどもできてしまいます。

現代の旅におけるスマートフォンの存在は、もはや財布と同じ、もしくはそれ以上の立ち位置にあります。写真撮影、地図とGPS、翻訳機能、そして出会った人々とより有機的

な繋がりを持つための手段として欠かせないものとなりました。

地球の反対側にいる友達に「ハイ、元気？」なんて気軽に送れるほどに、スマホとSNSは世界中の距離をぎゅっと縮め、人と人を繋げることに大きく貢献してくれています。コロナ禍によって国々が物理的に分断されてしまってる今まさに、旅での用途以上に人類になくてはならない存在となっているのではないのでしょうか。

(カモノハシタニ)



マルタン・プロヴォ監督『5月の花嫁学校』2020年、フランス



物語は、1967年フランス・アルザス地方の田舎の全寮制の花嫁学校(ヴァン・デル・ベック家政学校)の入学式で始まる。学校の目的は、花嫁候補の少女たちを「完璧な主婦」に育てること。しかし、経営者である校長の夫の死によって、学校が

で姿を消しているそう(だ)。

そして生真面目になりがちな内容を、とにかく楽しいコメディに仕上げるフランス映画に脱帽の109分だった。

(井川敏郎)



破産寸前であることが分かり物語は急展開。学校の維持に校長が奔走する中で、世の中も急激に変化。女性解放を求める波が生徒はもちろん教職員にも及び、そしてついにパリで5月革命勃発。ヴァン・デル・ベック家政学校の生徒・教師全員が革命のパリへ向かう、自由を求めて。題名にある5月だ。

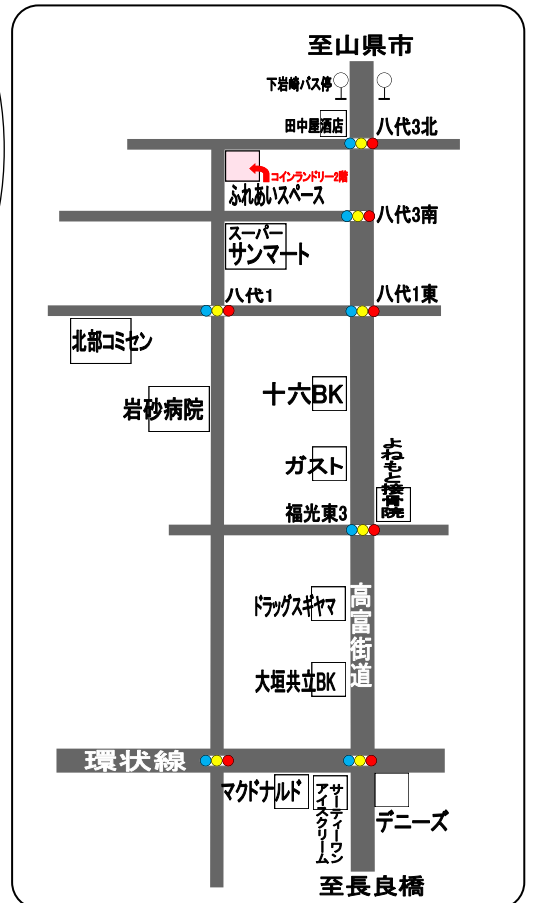
1960年代中頃までのフランス農村部にはこのような花嫁学校がたくさんあり、女性は夫に付き従い、家事育児の全てを担う「完璧な主婦」になることが求められていたらしい。'57年生まれのプロヴォ監督は自分の子供時代、家事育児は母親の役割であり、父親は家事を一切手伝わなかったと語っている。

「完璧な主婦」は、日本の60年代に「求められていた」主婦像と重なる。それなのに、50年たった今の日本と報道で伝えられるフランスとの違いを考えさせられた(フランスでは全国の花嫁学校が1968年から2年ほど

例会への事前申し込みは不要です

例会会場案内

例会は、ポポロのふれあいスペースです



2021年前半 哲学カフェ、第25期の予定

例会は19:00~21:00です。

会場は、ふれあいスペースです。

第151回例会 1月14日(木)	「世の中を明るくするには何が必要か？」 * 新型コロナ蔓延が「永続波」となり、ワクチンのみが明るい材料。だがどうか。 * コロナ危機で新たな変革の兆しが見えてきたが、これをどう実現するのか。	中止 しました
第152回例会 2月11日(木)	「攻撃優先を進める<理論>と<予算>を問い直す？」 * コロナ対策のために膨大にふくれあがった予算は、一体どのように使われたのか。 * その影に隠れて推進される自衛隊の攻撃軍隊化。その危険な理論とムダ予算に注	中止 しました
第153回例会 3月11日(木)	「2050年までに温室効果ガスゼロは可能なのか？」 * 世界の趨勢にまったく反する政策をとってきた日本政府は、突然、ゼロ目標発表。 * これはCO2ゼロではなく、原発も含めているまやかしの。これでいいのか。	終了 しました
第154回例会 4月8日(木)	「教育で大切なことは・コロナ危機を通して？」 * コロナ危機の中で、教育のあり方、内容、制度は変えざるを得ないことが生じた。 * 少人数教育へ一歩踏み出したが、リモート教育の推進、管理主義、高い教育費は	終了 しました
第155回例会 5月13日(木)	「女性観、男性観、そして人間観を問い直す」 * 東京五輪開催にからんで、やっと問題化してきた日本における女性差別の深刻さ * 問題の根っこは、女性<男性の差別感覚の次元から、人間観の貧しさに目を向	終了 しました
第156回例会 6月10日(木)	「SNS、スマホ、マイナンバー制の功罪を考える」 * SNS、スマホなどの情報取得・伝達・交流手段は、個々人にも大きな効果・利益を * だがその手段を持たない者への差別して現れ、その情報が企業・国家によって一	終了 しました
第157回例会 7月8日(木)	創立13周年記念行事は休止。通常例会にします。 「資本主義って何だ、社会主義はどうなった？ この先めざす社会は？」 * ソビエト連邦の瓦解によって、資本主義は「勝利」した後、地球規模でますます強欲になり、破壊的になった。 * 残存した社会主義の多くは変質した。さて、今後めざすべき社会はどのようなものか？	

わいわいがやがや  
アラカルト

★「沖縄慰霊の日」の6月23日、新型コロナ「緊急事態宣言」発令中の沖縄での式典は、例年5000人規模の参列者は36人にしぼられて開催された。玉城知事は平和宣言で、「安全・安心で幸福が実感できる島」をめざすと述べた。

★それは、菅首相の「安全・安心なオリンピックをめざす」という空虚な答弁とは異なっていた。辺野古新基地建設強行に加えて、コロナ禍と経済停滞の苦境にある中で、県民と共に歩む姿勢を示した力強いものだった。

★さらに、中学2年生の上原美春さんが「みるく世(ゆ)の嘯(うた)」と題する「平和の詩」を朗読した。姪が生まれた喜びを沖縄戦の悲痛な出来事と対比し、「みるく世」=平和な世の中への希望、いや決意を語る。

★「今日生きている喜びを震える声帯に感じて 決

意の声高らかに」「みるくせめなうらばせや直れ」「平和な世界は私たちがつくるのだ」と。4年前に、姉の上原愛音さんが沖縄戦の当事者の「おばあたち」に誓った平和への決意を引き継いで..

★ここでふと、50年ほど前に、世話になった藤野渉先生から、「吉田君、小指の痛みを知ってるかい」と聞かれた。伊東ゆかりの歌ですかと答えたら、いやそうじゃない。親指は北海道、順番に本州、四国、九州、そして小指が沖縄なんだ、と。

★なるほどうまく形容したものだ。藤野さんは、当時「沖縄返還同盟」愛知県会長で、真下さんほど「社会活動」はしていなかったのですが、こんなことまで言って沖縄の痛みを伝えようとしたことに深く感じ入った。単に知ることだけでなく、沖縄の人たちと共に歩めるか、ということだったのだ。(吉田千秋)